



比類ない文化遺産

パリから2時間ほどの場所にあり、ロワール川を望む高台に位置するドメヌ・ド・ショーモン・シュール・ロワールは、その自然の景観がユネスコの世界遺産に登録されており、一年を通して訪れることができます。

32ヘクタールの広さを持つ当領地は、以下の3つを統合しています：

- > 芸術・自然センターは、毎年世界的に有名な15人ほどのアーティスト、造形アーティスト、写真家を招待しています。
- > 国際庭園フェスティバルは、1992年から続く世界有数のフェスティバルで、庭の専門家や愛好家から高い評価を得ており、毎年異なるテーマを設けて、世界中から造園家や庭園デザイナーを招待しています。
- > ロワール溪谷の最も美しい城の一つで、広大なイギリス風の風景式庭園に囲まれています。

この3つのアイデンティティこそ当領地の魅力です。ショーモン・シュール・ロワールでは誰もが驚くことでしょう：芸術愛好家や好奇心旺盛な方、熱心な園芸家や冒険家、文化遺産の専門家や歴史愛好家。

ドメヌ・ド・ショーモン・シュール・ロワールが取得している様々なラベル：

- > ミシュランガイド「3つ星」(『ロワール溪谷の古城』)
- > トリップアドバイザーのエクセレンス認証のアワード
- > 「Jardin Remarquable」(優れた庭園)
- > 「Arbres Remarquables」(優れた樹木)
- > 「Qualité Tourisme」(クオリティの高い観光)



様々な魅力を持つ当領地は、お一人で、カップルで、お友達と、ご家族で訪れるのに理想的な場所です。





フランスの王妃や公妃らの居城となった比類ない城

ロワール渓谷を望むショーモン城は、文化的景観がユネスコの世界遺産に登録されており、ロワール河畔の古城の中でも傑出した城の1つとなっています。

16世紀には王妃カトリーヌ・ド・メディシスが所有し、次いでその恋敵であったディアヌ・ド・ポワチエの手に渡ったショーモン城は、その歴史を通じて、ノストラダムス、彫刻家ニニ、ベンジャミン・フランクリン、ジェルメヌ・ド・スタールといった数多くの著名人を迎え入れてきました。

19世紀末には、ショーモン城最後の個人所有者であったブロイ公妃が城に近代的な息吹をもたらし、絢爛豪華な饗宴が催される華々しい時代を迎えました。

ショーモン城の見どころ

歴史的な居室

ブロイ家の手によって復元された部屋の数々では、王妃カトリーヌ・ド・メディシスやディアヌ・ド・ポワチエ、また王妃

カトリーヌ・ド・メディシスの占星術師であったルツジェリといった、個性豊かな歴史上の人々の暮らしを垣間見ることができます。

個人居室

1875年6月、マリー＝シャルロット＝コンスタンス・セイは、ショーモン城を買取り、夫であるブロイ公と共に数々の工事に着手し、とりわけルネサンス様式の内装を施しました。こうして、数ある部屋全体に、家具や調度品が置かれ、内装が施され、それらは後に豪華な饗宴が催される舞台となりました。

礼拝堂

礼拝堂は、16世紀の初めに建設が行われ、フランボワイヤン・ゴシック様式の彫刻による装飾が施されました。礼拝堂のステンドグラスは、ブロイ家に至るまでのショーモン城の歴史を物語っています。

ショーモン城のまわり

厩舎

ヨーロッパで最も豪華で近代的な厩舎が、ブロイ公の依頼により、建築家ポール＝エルネスト・サンソンによって1877年に建てられました。

歴史ある大庭園

ブロイ公の希望を汲んで作られた広さ21ヘクタールの歴史ある大庭園は、イギリス風の風景式庭園で、1884年から、19世紀末のフランス有数の造園・建築家アンリ・デュシェーヌが設計を手がけました。

- > 年中無休(但し1月1日と12月25日を除く)
- > 「国有備品」から素晴らしい家具調度品が寄託されています
- > 数々の部屋に現代美術の作品が展示されています
- > 庭園を散策しながら独創的な作品が鑑賞できます





国際庭園フェスティバル

当領地を象徴するこのフェスティバルは、創造性、イマジネーション、詩、自然をテーマとしています。1992年から庭の専門家や愛好家から高い評価を得てきた当フェスティバルは、毎年世界中から造園家や庭園デザイナーを招待しています。当フェスティバルの開催にあたっては、複数の分野にまたがるチームが提案するプロジェクトの中から、毎年20を超えるプロジェクトが審査員によって選ばれます。また、特別ゲストには「グリーンカード」が与えられます。フェスティバルでは毎年異なるテーマが設けられ、驚くようなテーマの発表を誰もが楽しみに待ち受けます。

フェスティバルの周辺 ガルー公園

2012年に作られた10ヘクタールほどの広さのガルー公園は、優れた庭園文化を持つ日本、中国、韓国、イギリスなどにちなんだ庭園が常設されています。

当公園には、Yu Kongjiang、Wang Shu (2012年プリツカー賞)、Che Bing Chiu、

高野文彰、鈴木昌道といった有名な建築家や造園家の作品、また、クリス・ドゥルミー、パブロ・レイノソ、アンドレア・ブランツィなど、世界的なアーティストの作品が集められています。

温室の宝物

国際庭園フェスティバル開催スペースの近くにあるこの新しい温室には、意外な植物コレクションが収められています。その月々に異なる、珍しい植物の組み合わせが、インスピレーションあふれるシーンを作り出します。

オールドローズの箱舟

ドメヌ・ド・ショーモン・シュール・ロワールは、特にオルレアン地方のつるバラを集めたコレクションを通して、サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏が誇る園芸の伝統を広く紹介することにしました。

小温室

国際庭園フェスティバルの会場内にある

この現代的なデザインの温室は、水生植物の見事なコレクションを展示しています。

菜園

当領地の入り口付近にあるこの菜園では、様々な香りや色に導かれながら、植えられた作物の間の散策が楽しめます。ここは、昔ながらの忘れられた野菜を保存していく場所であり、その良さを新たに発見する場所となっています。デザインも材料も独創的なこの現代的な菜園の良さを、ためらうことなく取り入れてください！

- > 1992年から続く、現代的な造園デザインの実験の場
- > 毎年異なるテーマで30の実験的庭園を新設
- > 新人を含む有名な造園家による作品の数々
- > 1992年以降、800以上の庭園・公園を設置2





自然と芸術の中心地

年アートシーズン

芸術・自然センターでは、毎年、世界的に有名なアーティスト、造形アーティスト、写真家を招待し、自然をテーマとした斬新で独創的な作品の制作を依頼しています。32ヘクタールの広さの領地内のあちこちに展示されるこれらの芸術作品は、アーティストと当領地の精神が見事に会って生まれたものあり、領地を散策する見学者に、発見と驚きと感動を与えてくれます。シャトー内、ギャラリー・デュ・フェニル、ギャラリー・アニエス・ヴァルダ、養蜂博物館、ロバ厩舎、厩舎、および歴史的庭園内を散策しながら、インスタレーション・アートを堪能。

サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏の特別注文

2008年に始まった3年ごとの特別注文は、サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏がドメヌ・ド・ショーモン・シュール・ロワールのために行っているもので、これまでヤニス・クネリス(2008-2010年)、サルキス(2011-2013年)、ガブリエル・オロスコ

(2014-2016年)、シーラ・ヒックス(2017-2019年)といったアーティストを迎え、文化遺産と現代アートの対話を培ってきました。これと並行して、国際舞台で活躍する現役アーティストの展示をこうした特別注文と交えることで新しい発見を生み出し、当領地の見学をいっそう豊かなものにしていきます。特別制作の作品によって見学コースが導かれ、これまで一般公開されず人が立ち入ることのなかった空間が展示の場となることさえあります。

常設のインスタレーション

大庭園と城内、および付属建物に展示される作品は、いずれもショーモンのために特別に制作されたものです。当領地の雰囲気ですっかり溶け込み、まるで昔からずっとそこにあったかのようで、実際にそのうちのいくつかは常設展の作品として残ります。アンディー・ゴールズワージー、ステファン・ギラン、ジュゼッペ・ペノーネ、ニコライ・ポリスキー…。全く新しい作品を発見することはもちろんですが、これまでの展示作品に再び出会うこともまた、

見学の喜びのひとつではないでしょうか。当領地全体で、40点ほどの常設作品が展示されています。

ショーモン・シュール・ロワールの写真展

ショーモンのアート・自然センターでは毎年、11月中旬から2月末にかけて、冬の全特別展で写真作品を紹介しています。こうして、有名写真家が独自の目でとらえた自然の景観をご覧いただけます。

- > 3500m²の広さを持つ展示ギャラリー
- > 大な芸術家たちにインスピレーションを与え、表現の題材となっている芸術と自然の関わり
- > 世界的に有名な造形アーティスト：アンディー・ゴールズワージー、エル・アナツイ、ジュゼッペ・ペノーネ、川俣正、フランソワ・メシヤン、アンヌ&パトリック・ボワリエ、ニコライ・ポリスキー、ヴァンサン・バレエなど

